

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

| | | | |
|---|-------------------------|-------|------|
| プログラム名称 | たおやかで平和な共生社会創 生プログラム | 申請大学名 | 広島大学 |
| 申請大学長名 | 浅原 利正 | | |
| プログラム責任者 | 坂越 正樹 | | |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムはおおむね計画を着実に実施しており、所要の体制整備を行い、優秀な学生を受け入れて、グローバル人材の養成を確実にスタートさせている。 ・学内措置として「大学院リーディングプログラム機構」を設置して、学長が機構長を務めると共に、学位プログラム運営体制の構築を図り、全学的な支援体制を整えている点は評価できる。 ・アカデミックメンターとプロフェッショナルメンターの充実化や、特任教員と教育支援職員の新規雇用、第三者評価委員会の設置を行うとともに、産官学連携体制を強化し、キャリアパス拡大を図るための体制を整えている点も評価できる。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年1月～2月に平成26年4月入学者の選抜を行い、22名の出願者から7名の博士前期課程学生を選抜している(留学生5名、日本人2名)。当初計画では初年度に前期課程15名、後期課程3名の入学を予定しており、6月現在、本年10月入学に向けて残りの前期課程8名と後期課程3名の入学者選抜を実施中で、定員を充たす目処が立っているとのことである。しかしながら、本プログラムはまだ十分に周知されていない面があるので、今後とも広報に十全なる形で努めるとともに、入学者選抜の時期、留学生と日本人学生との比率、3つの人材育成コース分けの学生比率などについて慎重に配慮することが望ましい。 ・本年4月入学の学生は4つの異なる研究科に所属しているために、日常的な居場所が異なっている。本プログラム学生たちの相互交流の円滑化を図るために、大学会館の一室を「たおやかクラスルーム」として使用することによって、本プログラム学生の交流拠点を構築していることは評価できるが、今後は6つの研究科への学生の所属が予定されているので、本プログラムとしての研究教育・交流拠点の確立について引き続き配慮されることを期待する。 ・本プログラムでは、文理融合型グローバル人材の育成が目指されているので、3つの人材育成コース(文化創生コース、技術創生コース、社会実装コース)のより効果的な融合を図ることが期待される。 ・本プログラムでは異分野の視点・基礎力を養うオンキャンパス教育とともに、現場での力をつけるオンサイト教育の充実化が図られている。オンサイト教育では、日本の中四国地域ならびにインドなどの南アジアにおける現地での実地教育が重要な効果を発揮することが期待されている。その際に、現地語の能力が問われることになるので、英語能力の高度化とともに、現地語の習得についてもなんらかの方策を講じることが望ましい。 ・本年4月に学生の受け入れを行ったところであるが、教育スケジュールの確立の遅れが学生たちから指摘されているので、早期に確定させ学生に提示することが望ましい。また今後は、特任教員を有効活用することなどによって学生たちの立場に立った教育プログラムの充実化が期待される。 ・また、学生のキャリアパスについて、更なる多様な可能性の追求が期待される。 | | | |